

# IMJ NEWS LETTER

## 中国・インドからわが国の統合医療をみる

一般社団法人日本統合医療学会 理事長 渥美 和彦



▲メダンタ・メディシティー建物外観

私は、本年10月から11月にかけて、中国およびインドで行われた統合医療の会合に出席すると共に、両国の関連施設を訪問する機会を得た。今回の訪問は、わが国の統合医療を考える上で大いに参考となるものであった。

世界4大文明の発生の地として長い歴史をもつ中国およびインドでは、現在も尚、中国医学、アーユルヴェーダなどの伝統医学が日常の健康・予防の場で生き生きと実践されている。

近年、この両国の経済成長は著しく、経済面、外交面における発言力が国際社会において年々大きくなっている。人口や国土の大きさに加え、経済力、技術力においても世界の次世代を担う二大国になると目されていることは既に衆知されている。

従って、近い将来、この両国が統合医

療を国策として推進しているという事実が世界の医療事情に対して、少なからざる影響を与えるであろうことは間違のない。

中国では超高齢化が急速に進みつつあり、独りっ子政策による若年者の経済負担増が深刻な社会問題として取り上げられている。その結果、“統合医療による予防医療の推進を始めとした高齢化対策”が現実化してきている。

インドでは、以前より、日本の厚生労働省にあたる健康家族・福祉省の中にAYUSH（アーユルヴェーダ、ヨーガと自然医学、ユナニ、シッダ、ホメオパシー）という伝統医学担当部門がある。このAYUSHでは伝統医学や相補・代替医療に関する国内外のデータが蓄積、分析され、国策立案に寄与している。



▲ヨーガ・自然医学部長 (AYUSH 局研究センター)

また、最近ではデリー市内に大規模なメダンタ・メディシティーが建設され、統合医療センターとして発足した。

このセンターは心臓外科医のトリファン博士が理事長として就任し、国内外から数多くの優秀な専門医を集め、超高度医療の先端設備を有した●●坪の広大なメディカルセンター (<http://www.medanta.org/index.aspx>) である。このセンターは、近代西洋医学とアーユルヴェーダ、ヨーガなどの伝統医学や相補・代替医療との統合を図りながら、患者中心の医療の提供を目指している。インディラガンディー国際空港（デリー）から10分という地の利を活かし、文字通り、インドにおけるメディカルツーリズムの一大拠点地として位置づけられている。



▲AYUSH 局研究センター



▲アディアトウア・サダーナケンドラ(ヨーガセンター)

その他、今回のインド訪問ではヨーガセンターやアーユルヴェーダ・ユナニ大学附属病院などの見学の機会を得たが、21世紀の現在においても伝統医学が国民の健康・医療に深く根づいているのを痛感した。

私は今回の訪問を通じて、我が国においても統合医療を国策として推進する緊急性を益々実感した。



▲Dr.トリファンとDr.クリシュナとの会見(メダンタ・メディシティー)



▲参事官との対談(在印度日本大使館)

統合医療推進の軸は以下の4点である。

- 1) わが国に伝統医療を代表とする拠点センターの設立
- 2) 統合医療大学の設立
- 3) 政府機関の中に統合医療部門の設定
- 4) わが国の伝統医学、CAMの研究の推進

尚、当学会としては、上記のような提案を政府に提出するとともに、今後、以下3点を含めた事柄を志向したいと考えている。

- 1) 統合医療の体系的理論の構築
- 2) 国民への統合医療の啓発
- 3) 医療・福祉現場に即した統合医療の実践

今回の両国訪問を機に、当学会が中心となって、我が国における統合医療推進活動を牽引していく使命を益々強く思った。



▲ティピア・アーユルヴェーダ・ユナニ大学正面玄関



▲ティピア・アーユルヴェーダ・ユナニ大学付属病院



▲世界遺産ラール・キラール(レッド・フォード)



▲ビルラー寺院(ヒンズー教)



▲糖尿病による褥瘡に対する治療



▲ティビア・アーユルヴェーダ・ユナニ大学付属病院

#### 発行元

一般社団法人 日本統合医療学会 南青山事務局  
〒107-0062 東京都港区南青山5-4-27  
ジブラルタ生命南青山ビル902  
Email : [imj@imj.or.jp](mailto:imj@imj.or.jp)  
FAX : 03-3498-1460